

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.08.19 vol.32

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

残暑お見舞い申し上げます。

各地でゲリラ豪雨が相次いだり、  
まだまだ暑い日が続いておりますが、  
皆様、いかがお過ごしですか？

旧盆を迎えた先週は、  
久しぶりに故郷に帰省したり、  
国内や海外各地を旅行されたりと  
思い思いの夏休みを過ごされた方も  
多かったことと思います。

楽しかった思い出が日々の活力となり、  
また皆様が笑顔でがんばれますように…☆

さて、本日から「今を生きるスターリィマンの物語」の  
第11話として、認定NPO法人 テラ・ルネッサンスの  
理事・創設者の鬼丸昌也氏のメールマガジンを  
3回にわたってお送りさせていただきます。

是非、最後までお楽しみいただけると嬉しいです。

★\*.....\*★

☆第11話 すべての生命が安心して生活できる社会の実現ために生きる☆  
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス 理事・創設者 鬼丸 昌也 氏

第1章 ～鬼丸昌也氏 との出会い～

---

鬼丸昌也氏の存在を初めて知ったのは、  
2008年6月。

後に鬼丸氏や鬼澤氏と出会うきっかけとなった  
「ドリームプランプレゼンテーション」の  
エントリー説明会に娘の祐希と参加した時の事でした。

大会実行委員長の福島正伸先生の講演の最初の方で、  
「世界平和のために活動する素晴らしい青年がいる」と  
ご紹介されたのが鬼丸昌也氏でした。

大学時代にNGOを1人で設立し、カンボジアの地雷撤去や  
ウガンダなどで元子ども兵の自立支援を行っているという話に、  
祐希は大きな衝撃と感動を覚えたようで、  
自分自身も世界中に貢献出来るような夢を実現したい！と  
奮い立たされたそうです。

鬼丸氏のテラ・ルネッサンス創設の想い（公式サイトへリンク）  
<http://www.terra-r.jp/contents/index.php?catid=6&blogid=2>

その後、私たちはドリプラへの出場が無事決まり、  
12月19日に行われた予選・20日の本選で、  
審査員とコメンテーターを務めていた鬼丸氏と  
大会終了後の打ち上げで初めてお会いしました。

この時にご挨拶させていただく位で、  
しばらく鬼丸氏とお会いする機会がありませんでしたが、  
娘は、早く鬼丸氏のようになりたいと、  
いつも頑張る力をいただいていた。

三人で初めて、鬼丸氏の講演会に参加させていただいた時。

鬼丸氏が高校3年生の時に行った  
スリランカへのスタディーツアーで  
社会活動家のアリヤラトネ博士に出会い、

「もし君が社会を変えようとするならば、  
特別な知識や財産など要らない。  
ただ、すべての人に未来を  
作れる力があると信じなさい」と教えられたお話。

大学生の時、初めてカンボジアの地雷原に行き、  
そこで地雷を撤去する光景を目の当たりにした時、  
作業をする人の息遣いと金属探知器の音以外、  
現地で生活する人の物音が全く聞こえなかった事への衝撃。

ウガンダの元少年兵たちが経験した壮絶な過去。  
そして今も尚、彼らを苦しめている大きな心の傷跡。

今まで、書籍やインタビュー等で  
色々なお話を拝見させていただいていましたが、  
ご本人から直接語られる内容はとても新鮮に響き、  
心に真っすぐ伝わってくるのを感じました。  
そして、この人は将来必ず、世界を変える人になると思いました。

これまで「今を生きるスターリマンの物語」で  
ご紹介させていただいた大久保寛司氏や高野登氏、  
渡邊幸義氏、鬼澤慎人氏、安田未知子先生とも  
ご縁の深い鬼丸氏。

2012年から毎年7月には、テラ・ルネッサンスさんが  
被災地支援として始めた「大槌復興刺し子プロジェクト」の  
刺し子さんたちと交流させていただく東北ツアーに  
祐希は3回もご一緒させていただいています。

大槌復興 刺し子プロジェクト（公式サイトへリンク）  
<http://tomotsuna.jp/>

ドリプラの説明会で鬼丸氏の事を知ってから  
ずっと憧れの存在として見ていた祐希は、  
まさか今のようなお付き合いをさせていただけるとは  
想像もしていなかった事でしょう。

きっと祐希がこれから夢を実現していくために、  
鬼丸さんとの出会いは必然だったのだと思います。

この素晴らしい、スターリマンの皆様とのご縁が、  
輝く未来をつなぐ希望の風船となって、  
平和な世界を築く一歩となることを心から願うばかりです。

最後に、鬼丸さんにご縁をいただいた  
ドリームプレゼンテーションの実行委員長の  
福島正伸氏の大会に込めたメッセージを  
ご紹介させていただきます。

一番大切なことは、  
一人の夢をみんなで応援することによって  
夢が現実化していき、  
地域や社会がより良くなってゆくの。

この過程が本当に大切で、素晴らしいことなんです。

これから、皆さんが夢を追いかけようとする時、  
いろいろな障害や壁が立ちはだかるでしょう。

でも 皆さんが夢を諦めない限り、  
そして、その夢を応援する人がいる限り、  
絶対夢は実現するはずですよ。

みんなで大きなハードルを越えて夢を実現したとき、  
素晴らしいプレゼントが待っています。

<http://drepla.com/about/>

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
第2章は、8月29日(金)配信予定です！

---

鬼丸氏との出会いは、いかかだったでしょうか？  
昨日は、海外出張中の鬼丸さんから  
以下のようなメールを頂きました。

-----  
はせがわさま

お世話になっております。  
テラ・ルネッサンス鬼丸です。  
ただ今、コンゴは、早朝6時を迎えるところです。  
(日本時間正午12時56分)

こうやって、多くの方に、私の想いを、  
お届けいただけることに、感謝申し上げます。  
ありがとうございます。

素敵なメールマガジンに、ご紹介いただけるのが嬉しいです(^^)／

-----  
鬼丸さんは、世界のすべての生命が  
安心して生活できる社会の実現ために、  
今日はアフリカのコンゴで  
また一歩ふみ出しているのですね。

日本は来年で戦後70年になります。  
多くの人々が平和を願い、  
同じゴールに向かって歩いているはずなのに、  
世界では、まだまだ戦争は絶えません。

鬼丸さんと共に平和な社会を実現するために、  
世界中が家族のような温かいきずなでつながって  
みんなが幸せになりますように、  
夫は、スターリィマンの絵を描き、  
私は、スターリィマンのお話を書き続けて生きています。

さて、今回は、第11話の第3章として、  
鬼丸昌也氏の家族の原風景をお送り致します。

配信は、8月29日(金)となります。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

8月4日～6日まで、神戸、大阪、京都と  
関西各地にお伺いさせていただいたのですが、  
6日は、高野登氏のご厚意で  
京都のPHP研究所内にある「松下資料館」に  
ご一緒にお伺いさせていただきました。

松下資料館 <http://matsushita-library.jp/>

この資料館は、松下幸之助氏の奥様が  
幸之助氏の成してきたことを世に広めることで、  
PHP（繁栄・平和・幸福）の実現に貢献出来ればと、  
松下幸之助氏の生誕100年を記念してつくられたそうです。

パナソニックグループを創業し、  
PHP研究所の創設した松下幸之助氏。

今も尚、経営の神様として、  
多くの方々の人生に勇気を与え、  
人としてのあるべき姿を伝えています。

そして、何とその松下幸之助氏のお誕生日と  
鬼丸昌也氏のお誕生日が、同じ11月27日。

同じ京都から、世界の平和や幸福のための発信をされている。  
これもきっと偶然ではなく、必然なのだと思います。

松下資料館は、一日では見切れないほど、  
たくさんの学びと気づきを得られる場となっています。

是非、皆様にもお出かけいただき、  
ゆっくりと松下幸之助先生の志を  
観て聴いて感じていただけたら嬉しいです。

それでは、まだまだ暑い日が続くようですので、  
皆様、くれぐれもご自愛くださいませ。

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP：<http://www.dream-hasegawa.com>  
blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*...-----\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリィマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.08.29 vol.33

★\*...-----\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

8月も下旬を迎え、急に涼しくなりましたが、  
皆様、お変わりございませんか？

秋の虫が鳴き、梨やぶどうや秋刀魚など  
秋の味覚が食卓に彩りを添えるようになりましたね。

今年の夏は、世界中が気候変動に見舞われ、  
日本の各地で台風や集中豪雨、竜巻などの被害が  
毎日のようにありました。

特に今、広島の土砂災害による被害の大きさには、  
胸がしめつけられる思いです。

広島をはじめ、各地で被害に遭われた方々に、  
心よりお見舞い申し上げます。

さて、本日は「今を生きるスターリィマンの物語」の  
第11話 認定NPO法人 テラ・ルネッサンス理事・創設者  
鬼丸昌也氏の第2章 家族の原風景をお送りさせていただきます。

最後までお楽しみいただけると嬉しいです。

---

☆第11話 すべての生命が安心して生活できる社会の実現ために生きる☆  
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス理事・創設者 鬼丸昌也氏

第2章 ～鬼丸昌也氏の家族の原風景～

---

---

Q 1. ご家族のことを教えてください。

---

私は、父の鬼丸博文と、母のさゆりの長男として、  
昭和54年11月27日に福岡県北九市小倉南区で生まれました。

兄妹は、妹、妹、弟、妹の5人です。

現在、長女の妹は准看護師、次女の妹は結婚して相手の親と同居。  
次男の弟は工場勤務、一番下の妹は介護士をしています。

私は、昨年7月に結婚をして東京に住んでいまして、  
実家には母と長女と次男と三女と一緒に暮らしています。

---

Q 2. お父様とお母様のことを教えてください。

---

私の父は、鬼丸家の長男として生まれて、  
父が小学2年の時に、私の祖父、  
私の父にとっては父親が亡くなったので、  
長男として弟を高校に入れるために、中学を卒業後、  
大工になる修行に入ったそうです。

その後、大工の仕事をしていました。

母は村の診療所で看護師として勤めていた時に、  
父と出会って結婚をして、母が19歳の時に私が生まれました。

私たち家族は、父が大工の仕事をしていた  
北九市小倉に住んでいましたが、  
私が6歳の時に事業に失敗をして、  
両親と兄妹4人で父の実家のある  
福岡県朝倉郡東峰村（合併前は小石原村）に引っ越しました。

このことは、小学校1年生の私にとっては、  
100万以上の北九州の都市から人口1000人の村に住むという、  
とても大きな急激な環境変化でした。



父は大工という仕事柄、決められた納期通りに作業を積み重ねていかなければならないので、そのあたりの愚直さというのは、すごく尊敬しています。

小石原村の私が住んでいた所は7世帯しかなくて、村の中心から4キロも離れていて、一番若者が住んでいたのが我が家だったので、父にはあらゆる村の役がまわってきて、それを文句も言わないでやり続けていました。

お酒も飲まないし、楽しみはパチンコぐらいで、真面目で愚直な人でした。

肝心なことはしゃべらないと言うか、私も受け継いだと思うのですが、何か問題が起きた時には、自分一人で解決しようとしてしまうような人でした。

そんな父を、母はよく、何を考えているのかわからないと時々言ってましたが…。

父親を若くして失くして、誰かに相談しても、結局は長男として何でも自分がやらなければならなかったから、黙って一人でやって来たんでしょうね。

母は、看護師をやっていたこともあり、陽気で人つき合いはいいですね。わたしの人づきあいの良さは母譲りなんだと思います。

また、おしゃべりなんですけど、気にするタイプ。事業に失敗をして、父の実家で同居した時に、曾祖母も祖父母と、嫁としての立場もあったんでしょうね。

祖母は施設にいますが、今も元気です。

---

Q 3. どんな子供時代を過ごされましたか？

---

小学校1年生の時に移り住んだ小石原村（現：東峰村）は、人口1000人ぐらいの村で、私が通った小学校は、1学年1クラスぐらいで、全児童100名ほどでした。

初めは、いじめられましたね。  
今思うと洗礼だったのでしょうか (笑)。

2カ月ぐらい経って、いじめていた子が、  
親戚だったということがわかって、いじめは無くなりました。  
村的な解決方法です。

いじめられている時に、  
もともと本を読むのが好きだったこともあって、  
図書館に入り浸りになって、  
その時読んだ本が『マンガ日本の歴史』とか、  
そういうノンフィクションの伝記などで、  
本が大好きになりました。

また、小さい時から鉄道が大好きで、  
駅名とか地名とか覚えていたと、  
母親が言っていました。私は覚えていないのですが、

社会的な出来事とか、事柄に対しては、  
小さい時から関心があったようです。

本好きから、海外や政治とかに興味を持つようになった私は、  
都内の色々な国の大使館に電話で資料請求をして、  
その国々のことを知るのが趣味になりました。

ただ、固定電話料金が1万円をこえて、  
さすがに親に怒られました(苦笑)

小学校5年生の時の自由研究では、  
ラオス共和国についてレポートをまとめて  
小冊子にしました。

大使館の人と仲良くなったり、  
世界の国々とつながっていくことで、  
ますます興味深くなって行って、  
きっとそれが今につながっています。

---

Q 4. 子供の頃はどんな夢をもっていましたか？

---

小さい頃の夢は、鉄道の運転手になりたいとか  
それなりにあったのですが、  
明確にこの職業につきたい、このような仕事がしたいと  
小学校の低学年に思ったのが、漫画家でしたね。

その当時、自分を表現する一つ的手段として、  
適切だと思ったのが漫画家だったんだと思います。  
藤子不二雄Aの『まんが道・4巻セット愛蔵版』がバイブルでした。

この作品は、藤子不二雄Aさんが、  
小学生から漫画家になっていく素晴らしいマンガで、  
ときわ荘の4畳半に二人で住みながら漫画家を目指していく。  
私もそんな漫画家になりたいと思っていました。

『コロコロコミック』という漫画本があって、  
一度投稿したことがあったですよ。

自分の考えを表現したかったのだと思いますので、  
そのことを考えれば、形は変わっていますが、  
今していることは、夢を実現していることになりますね。

---

Q 4. 子供の頃はどんな夢をもっていましたか？

---

小学校5～6年の頃は、ちょうどソビエト連邦が崩壊し、  
激闘の冷戦が崩壊しつつある時代でした。

ソ連がなくなるなんて、まさか夢にも思わなかったですよ。  
今まで教わってきた冷戦ということがなくなる。  
ベルリンの壁も崩壊するなんて、考えられないことでした。

そんな中、私は社会に対する関心が強くなっていきました。  
世界中をまわって仕事がしたいなあという思いも湧いてきました。

そして、漫画家というのは、平和だからできるんだ。  
平和な状態だから漫画を読むことができるし、  
描くこともできるんだと。

平和がなければだめだという考えに行き着いた私は、  
もっともっと思い切って、政治家になろうと思うようになったんです。

私が、中学2年の1995年に細川護熙氏が首相になって、  
非自民政権から政権が変わったんですね。

その政権が変わる前に、『新党さきがけ』ができて、  
党首の武村正義さんが「自民党を辞めて来ました」と言って、  
久米宏さんのニュースステーションに出演されました。

武村さんが次のTV局に行くため、席を離れようとした時に、  
武村さんのズボンの脇のポケットがほころびていて、  
久米さんがそのことを茶化したのを見た時に、私はビビッと来たんです。

ほころびているポケットにも気がつかないくらい  
やれる仕事はすごい！政治家になろう！と強く思いましたね。

中3の時には、当時の『新党さきがけ』のナンバー2だった  
田中秀征氏に「秘書にしてください」と手紙を書きました。  
田中氏からは「まずは高校に行きなさい」とご返事を頂きました。

田中氏以外にも、私は、中学校、高校と  
よく政治家や著者に手紙を書きました。

船井幸雄さん、藤原直哉さんとかにも書きました。  
苦になりませんでしたね。楽しかったですね。

しかも、当時はネットやメールもなく、ポケベルの時代でしたが、  
ほとんどの人が返事を返してくれたんです。  
手紙は、出してから返事が来るまで約1～2週間はかかります。

その時、学んだのです。「人というのは必ずみているんだ」と。  
何か事を起こしたり、何かしようと宣言した時、  
必ず人は見ているんだ、と。

ただ、その人が声をかけてくださったり、  
手伝ってくれたりするのは、タイムラグがあるよ。  
だから続けることが大切なんだと。

これがもしメールだったら気がつかなかったと思います。  
すぐに返ってくるから。  
返事を待つ時間があつたからこそ、  
続けることの価値とかを見つけることが出来ました。  
待つことの価値を知ったのです。これは今に生きています。

それと私は、小学校、中学校、高校と先生に恵まれました。  
田舎の小・中・高だったからか、若い先生が多くて、  
ある意味ではおもしろかったですね。

例えば、高校の時の先生は、福岡に船井幸雄氏の  
講演会に行くことを公休にしてくれました。  
その代り、講演会の内容をレポートにまとめて  
みんなに報告すること、と約束しました。

また、家庭の環境もあって、大学進学をあきらめて、  
私は高校を卒業したら就職をしようと思っていました。

しかし、高2の時に学年主任と担任の先生に呼び出されて、  
「本気で政治家になりたいのか」と聞かれ、  
「なりたいです」と答えると、大学に行く事を勧めてくれました。

日田高校から推薦が取れる一番いい大学は、  
立命館大学の法学部があるから、親御さんを説得するからと。  
その先生方のおかげで大学に行こうと言う気持ちになったのです。

それから、私は生徒会長に立候補して、  
生徒会長になって、大学に行きました。

私は、変わっていた子供だったと思うんです。  
政治家になりたいとか。  
それでもよしとしてくれた先生たちでした。

だから、私は先生たちに恩返しできるように、  
今のことを精一杯やっていかなくてはと思っています。

大学1年生の時は、産経新聞の専売所で住み込みをして、  
大学へ3時間の往復をしながら、朝夕刊を配っていました。  
朝2時に起きて、朝刊を400件配って、  
1時間半かけて大学に通って、今度は夕刊を400件配達しました。

大学2年～3年生の時は、新聞配達で出会ったマスターの紹介で、パチンコとカラオケの企業の社員寮に住み込みをして、夜8時～朝5時で、カラオケのバイトを週5回やりました。

こういった今までのすべての過程が、NPO法人テラ・ルネッサンスをつくるのに役に立っていて、つながっているというのが事実です。

地雷の問題に対してお金も、撤去技術も無く、英語も話せない、そんな自分が、僕にも未来を作る力があるとしたら何かできるはずだと。

すべてはギフトですね。

意図したものではないのですが、自然に出会った人の方が、自然にお付き合いできたり、いいお仕事をさせてもらったり、今までの人生は多かったので、多分これからもそうなんだろうと思います。

---

Q6. 鬼丸氏にとってのスターリィマンは誰ですか？

---

妻の暢子です。  
真面目で実直さは、私の方が負けると思います。

結婚を決めたのは、私が暢子と握手した時に、ああ、この人と結婚すると想像が出来たから、結婚したんだと思います。

一暢子さんはどうでしたか？

彼が、自分が思い描いたことは実現するという、彼の自分を信じれば夢は叶うしかない。結婚もそうだなと思います。

私は理想とかあまりなくて、結婚しようと思った人が、結婚する人なんだなあと思います。

価値観さえ合っていれば、どんな時でも話し合っ  
て分かり合っていけると思っています。

-----  
それから、自分以外すべて師です。  
出会った人すべてがスターリイマンでした。

もし、自分が出会った人をスターリイマンと思えない時は、  
まだまだ自分が未熟であるということです。

見方を変えれば、目の前の人が好きになれるかどうかです。  
すべての関係性が、スターリイマンの関係だと思います。

---

「今を生きるスターリイマンの物語」  
第11話 第3章は、9月9日(火)配信予定です！

---

鬼丸昌也氏の家族の原風景はいかかだったのでしょうか？  
鬼丸さんと奥様の暢子さんに我が家にお出でいただき、  
インタビューをさせていただいたのが、今年の4月8日でした。

それから約2ヶ月に、「僕が学んだゼロから始める世界に変え方」(扶桑社)  
を出版され、あとがきの最後にお父さんへ贈られた言葉があります。

-----  
最後に天国にいる父へ。  
大工である、あなたの影響のようです。

理想【家】を建設するために、  
目の前のことをあきらめない性格になったのは。  
あなたの息子でよかったと、心から思う。

あなたが人生を生き切ることで教えてくれた生きることの価値を、  
これからを担う若者や子どもたちに伝えていくから。

そうすると、あなたは永遠に、この世界に生きることができる。  
それが、あなたへの恩返しです。父さん。

2014年5月12日 平和の願いを新たにする大切な場所、沖縄にて

-----

あの日、インタビューをさせていただいたことが、  
鬼丸さんにとって、ご両親と育てこられた日々を振り返り、  
ご自身の原風景と向き合うきっかけになっていたら  
とても嬉しく思いました。

鬼丸さんが今は亡きお父様への恩返しとして誓う  
平和な社会が実現する未来を今出来る事から  
ひとつひとつつないでいけたらと心から願います。

鬼丸さんのご本を読んで、また湧き立つ力をいただきました。  
鬼丸さん、どうもありがとうございます。

もしまだお読みになっていないという方は、  
是非、鬼丸さんの想いに触れていただけたら幸いです。

「僕が学んだゼロから始める世界に変え方」(扶桑社)  
<http://www.fusosha.co.jp/Books/detail/9784594070540>

さて、今回は、第11話の第3章として、  
鬼丸昌也氏のスターリィマンに宛てた  
感謝の風船レターをお送りさせていただきます。

配信は、9月9日(土)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

次号の配信日である9月9日は、  
この「今を生きるスターリィマンの物語」をスタートしてから  
ちょうど1年になります。

第1話の日本理化学工業の大山泰弘会長から始まり、  
現在まで11人のスターリィマンをご紹介させていただき、  
お一人お一人の人生や生き方から、  
どれだけの勇気や希望…夢を叶える9つの風船を  
届けていただいたことでしょう。



2014年もあと4か月余りですね。  
皆様は、新年に願った夢をどのくらい叶えていますか？

私も残りの日々を精一杯生きて  
私のスターリィマンたちに感謝しながら  
夢を叶えていきたいと思います。

それでは、今日も最後までお読みいただきまして、  
本当にありがとうございます。

季節の変わり目ですので、体調管理には  
十分お気をつけてお過ごしくださいませ。

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP：<http://www.dream-hasegawa.com>  
blog：<http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---

★\*.....\*★

メールマガジンで語り伝える

「今を生きるスターリマンの物語」～感謝の風船ラブレター～

2014.09.09 vol.34

★\*.....\*★

---

☆ご あ い さ つ☆

---

皆様、お変わりございませんか？

昨夜は仲秋の名月でしたね。

残念ながら我が家からは、

お月様を愛でることは出来ませんでした、

皆様の所からは、いかがでしたでしょうか？

さて、本日9月9日は満月と

菊の節句と言われている「重陽の節句」です。

そして、ちょうど1年前の9月9日から

この「今を生きるスターリマンの物語」の

メールマガジンを配信させていただいております。

おかげ様で、私、はせがわ芳見が出会った

世のため、人のために尽くされている

スターリマンのような方々を

この1年間で11名ご紹介させていただくことが出来ました。

これまでご登場いただいたスターリマンの皆様、

毎回お読みいただいている皆様に感謝でいっぱいです。

本当にどうもありがとうございます。

それでは、「今を生きるスターリマンの物語」

第11話の第3章～鬼丸昌也氏のスターリマンに宛てた

感謝の風船レター～をお送りさせていただきます。

最後までお楽しみいただけると嬉しいです。

---

☆第11話 すべての生命が安心して生活できる社会の実現ために生きる☆  
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス理事・創設者 鬼丸昌也氏

第3章 ～鬼丸昌也氏のスターリイマンに宛てた感謝の風船レター～

---

スターリイマンへの感謝の手紙

両親、兄弟、妻、共に働く仲間たちや、支援の受け手の皆さん、  
今回の生で出会ったすべての人たちが、僕にとってのスターリイマン。

一人ひとりが、大切なメッセージを携えて、僕のもとを訪れてきます。

先日、コンゴ民主共和国で出会った元子ども兵。

彼は、武装勢力で兵士として戦わされてきました。  
その後、兵士を辞めて、村に戻ってきます。

そんな時に、縁があって、テラ・ルネッサンスが運営する  
元子ども兵や紛争で傷ついた人々の社会復帰を支援する施設で、  
溶接の技術訓練を学ぶことになります。

溶接の腕前があがるように、彼は一生懸命、技術訓練に励みます。  
そのうち、七輪や家のドアなど、地域の人々の要望に応じて、  
鉄を自慢の溶接技術で加工し、製品を作り続けてきました。

特に、鉄製のドアは、地域住民から重宝されます。

まだ、武装勢力の襲撃の恐れがある地域では、  
家のドアが、鉄製であると、頑丈なので、押し入るのに時間がかかり、  
武装勢力が襲撃を躊躇するのだと、言われているからです。

彼は、自分の制作した製品が、  
地域の人に喜ばれるのが、嬉しくてたまらないのです。  
そうして、地域の中で、自分の役割を見出していくのです。

そんな、ある時。新たな武装勢力が、彼を勧誘しに来るのです。  
一緒に、戦わないかと。

彼はきっぱり答えたそうです。

「俺は戦うことはできない。だって、今は、溶接の仕事が忙しいんだ！」

今も、彼は黙々と、溶接作業に従事しています。  
自分の役割を果たそうと、一生懸命なのです。

人は、役割、すなわち使命を、その人生の中で自覚をした時に、  
きっと、より強くなれるのだと、彼の姿を見て、強く感じたのです。

出会う一人一人が、僕の師匠。

そうスターリィマンなのです。

---

「今を生きるスターリィマンの物語」  
☆第12話の第1章は、9月19日(金)配信予定です！

---

鬼丸昌也氏のスターリィマンに宛てた  
感謝の風船レターは、いかかでしたでしょうか？

私は、“出会う一人一人が、僕の師匠。  
そうスターリィマンなのです。”

この言葉に、鬼丸氏がスターリィマンとして放している  
深い深い輝きの本質に出会えたようで、  
心から感動し、尊敬の念がまた溢れました。

「すべての生命が安心して生活できる社会の実現ために生きる」

鬼丸氏の美しく尊いその姿は、  
これからも多くの方々の感動を呼び、  
平和の輪を世界中に広めていく事でしょう。

私もスターリィマンのお話を魂をこめて描いて参ります。

”世界中が家族のような温かいきずなでつながって  
みんなが幸せになりますように”

9つの風船を届ける旅をずっとずっと続けてまいります。

私たち3人と出会ってくださった皆様。  
ずっと支えてくださっている皆様。  
すべてに感謝をこめて

合掌

さて、2年目となる次回からは  
「今を生きるスターリィマンの物語」の第12話をお送りさせていただきます。

配信は、9月19日(金)です。  
皆様、どうぞお楽しみにお待ちください☆

---

☆後 記☆

---

本日は、午後4時よりDr.コパ氏と  
来年2015年の夢を叶える干支のアートのお打ち合わせです。  
9月9日にお会いさせていただけるご縁に感謝でいっぱい。

毎日生きていることが幸せなんだと思えることが、  
本当にありがたいと思っています。

さて、今月の活動予定のご紹介ですが、  
9月20日（土）に都民ホールで行われる  
「通信制サポート校・東京ネットワークフェスタ2014」  
～観て、見て、僕らの宝物！～の舞台発表に  
私たちも出演させていただく事になりました！

是非、生徒の皆さんの発表をご一緒に  
観て、聴いていただけたら嬉しく思っております。  
ご来場をお待ちしております。

それから、嬉しいお知らせがひとつ。

本メルマガの第5話でご紹介させていただいた  
アイエスエフネットグループ代表の渡邊幸義氏が  
学園長を務める「アイエスエフネット高等学院 明蓬館SNEC青山」が  
今年10月に開校となります。

現在、平成26年10月からの新入生（転・編入生）の募集および  
平成27年4月新入生募集についての説明会を開催しているそうです。

詳細は、下記サイトをご覧ください。

<http://www.isfnet.co.jp/release/2014/0827.html>

それでは、本日も最後までお読みいただきまして、  
誠にありがとうございます。

今夜の満月は「スーパームーン」だそうですね。  
皆様にお月様のパワーが降り注ぎますように…☆

はせがわ芳見

---

発信元：はせがわ芳見  
〒330-0851 埼玉県さいたま市大宮区櫛引町1-422-2  
TEL/FAX：048-671-7708  
HP： <http://www.dream-hasegawa.com>  
blog： <http://starryman.cocolog-nifty.com/blog/>

---